



10月9日、東京都合唱連盟が**新型コロナウイルスへの対応に関する合唱活動の実態調査**と題するアンケートの依頼をホームページに掲載しました。

新型コロナウイルス感染症が合唱活動へ与えた影響を多くの合唱団から集め、今後の活動に活かしたいとしています。このアンケートはネット(ホームページ)上で答えるものですが、ネット対応が出来ない人にはPDFのアンケート用紙も用意されています。

都連への加盟の有無を問わず、誰でも1合唱団について1回のみ回答できます。アンケート用紙の場合は10月28日までに東京都合唱連盟まで送ります。調査結果は、機関紙「合唱ニュース」や公式webサイトで公開されます。

設問は、大きくわけて①どのような合唱団か(年齢構成なども含めて)、②新型コロナウイルス感染症による合唱活動への影響(活動の休止・再開・感染予防策など)、③オンラインを活用した合唱活動、の3項目から構成されています。

このアンケートは、東京都に限らず、全国各地域や年代ごとでどのような違いがあるのか、コロナ禍でどのような悩みや問題を抱えているのかなど全国規模で把握する良い機会です。みなさん、都連のホームページから回答しましょう。

一方、合唱指揮者の**佐藤拓**さんがシニア世代に絞った「**合唱団員(60歳以上)向けインターネット環境に関するアンケート**」を6月に実施し、その結果を7月2日に公表しています。都連の設問③オンラインの活用と関連する項目があり、シニア世代とネットの問題について、周囲に気軽に相談できる人があまりいないことが指摘されていました。

佐藤拓さんは「実際に私の合唱団でZoomを使ったミーティングを始めた際も、Zoomの導入に関して私が電話でガイダンスをし、何とか利用を始められるようになった方が複数いらっしゃいました。コンピュータやインターネットに、言いようのない恐怖、というか警戒心をお持ちの方は、近くでサポートしてくれる人が

いるのといないのとでは大きな違いです。」と述べていました。

佐藤拓さんのアンケートについては『おんがく広場』第67号で紹介しています。ネット中心でのアンケートなので回答者はネット親和性が強い人に偏っているものの、一定の傾向はみられると思われます。アンケート結果の詳細は「**佐藤拓official web site**」をご覧ください。

<https://contakus.com/choir/2020/07/post-560/>

都連 Tokyo Choral Festival 開催

東京都合唱連盟は、まだ練習が再開されていない人たちにも**個人参加**で歌える機会をと、10月24-25日に府中の森芸術劇場にてTokyo Choral Festivalを開きます。

24日は個人参加型の講習会、25日は従来より団体数を減らした形での**合唱祭**を十分な対策をとって実施します。全席指定席で一般の方も聴くことができます。

合唱祭は2つの会場に分かれ時間差をつけています。第1ブロック:どりーむホール(11:00開会)、第2ブロック:ウィーンホール(14:00-)、第3ブロック:どりーむホール(16:00-)。ウィーンホール使用中にどりーむホールの消毒を行います。

合唱祭には、みなみ野キッズシンガーズ、お江戸コリアーズ、臨海混声合唱団、大久保混声、学校関係12団体など計32団体がエントリーしています。合同演奏は、松下耕「**To Live**」(指揮:清水敬一)、木下牧子「**月の角笛**」(指揮:岸信介)、相澤直人「**ぜんぶここに**」(指揮:清水雅彦)が演奏されます。

いらか会 定演 開催

早稲田OBの**いらか会**は、延期していた第18回定演を10月17日浜離宮朝日ホールでマスク着用など感染対策を徹底した上で実施します。多田武彦作曲・**男声合唱組曲《雨》**、清水昭編曲**《坂本九セレクション》**、**寺山修司の詩による6つのうた《思い出すために》**を演奏します。

チケットは千円(全席指定)、当日券はありません。来場者を特定するためか最寄りの団員より入手して欲しいとしています。また事前に渡すチラシには10項目以上の感染防止策を記載し、読んだ上での来場をと念を入れています。ブラボアの掛け声はやはり禁止です……(‘;’)